

民間部門農林水産研究開発功績者表彰受賞者の業績概要

【農林水産大臣賞】

受賞者	業績名	所属
やました じゆん 山下 隼 てらだ たかし 寺田 崇	遺伝子組換えカイコを用いたヒト及び動物の診断薬の開発	ニットーボーメディカル株式会社研究開発部 (福島県郡山市)
<p>〈業績概要〉</p> <p>体外診断用医薬品は、生体試料から精製したタンパク質を原料としているが、測定対象物質によってはその原料化が困難なものがある。遺伝子組換えカイコを用いることで、原料であるタンパク質を安価で安定的に製造する方法を開発し、それを原料としたヒト用の骨粗鬆症体外診断用医薬品と動物用炎症診断キットの商品化を実現した。これは、先進的かつ独創的なわが国固有の遺伝子組換えカイコ技術を、産学連携により事業化につなげた世界初の取組みである。</p>		
くろだ あかし 黒田 丹	マハタのウイルス病ワクチンの開発	につせいけん 日生研株式会社 (東京都青梅市)
<p>〈業績概要〉</p> <p>マハタは既存養殖魚に比べて高単価で取引される高級養殖魚である。しかし、致死率が高いウイルス性神経壊死症に対する有効な治療や予防手段がなく、ワクチン開発が養殖業者や行政から強く求められていた。このため、本病に対するワクチン開発に着手し、臨床試験を行うとともに製造方法を確立し、世界で初めてマハタのウイルス病ワクチンの実用化に成功し、マハタ養殖の被害軽減に貢献した。</p>		
せと たかほ 瀬戸 堯穂 せと けいいちろう 瀬戸 啓一郎	倍数体育種技術を活用したリンドウ新品種の育成	有限会社 スカイブルー・セト (長野県上伊那郡箕輪町)
<p>〈業績概要〉</p> <p>わが国における先駆的なリンドウ育種家であり、倍数体育種技術を活用して世界で初めてリンドウの3倍体品種の育成に成功した。3倍体品種は花が大きく、結実しにくいため日持ちが良いという極めて優れた特質を有する。さらには、観賞性に優れた多数の品種や多様な花色を有し花型に新規性のある品種も多数育成し、国内の花き市場の拡大とリンドウ産地の育成に貢献した。</p>		

【農林水産技術会議会長賞 民間企業部門】

受賞者	業績名	所属
ごとう こうき 後藤 幸輝	簡単に施工できる ^{せんこうあんきよき} 穿孔暗渠機 「カットドレーン」の開発	株式会社北海コーキ (北海道北見市)
<p>〈業績概要〉</p> <p>畑作物の生産力を強化する上で、ほ場の排水改良は不可欠な技術であるが、排水対策としての暗渠の老朽化と性能低下による排水不良が現場の大きな課題となっている。本技術は、独創的な穿孔方法を用いて、深さ70cmまでの位置に耐久性のある通水空洞を無資材で、かつ、農家自らがトラクターで迅速・簡単に施工できる施工機であり、市販機の普及が進んでいる。</p>		
きたむら とおる 北村 亨	牧草サイレージ不良発酵原因の解明とサイレージ用乳酸菌の開発	雪印種苗株式会社微生物研究グループ (北海道江別市)
<p>〈業績概要〉</p> <p>北海道に特有の高水分牧草サイレージの極端な不良発酵の原因が、草地の植生と施肥にあることを明らかにした。さらに、こうした条件でも効果を発揮できるサイレージ用の乳酸菌の分離・選抜にも成功した。開発した乳酸菌は商品化され、現在、普及が進んでおり、北海道における牧草サイレージの不良発酵改善に貢献している。</p>		
たなか けんじ 田中 賢治 もり ちなつ 森 千夏	森林資源を利用したフルボ酸量産化技術の開発	国土防災技術株式会社 (東京都港区)
<p>〈業績概要〉</p> <p>植物活性剤、化粧品原料等に利用されるフルボ酸は、日本の森林土壌中に含まれているが微量であることから、これらの用途に利用するために有限資源として輸入されてきた。こうした状況の中、間伐によって産出される木質チップと木炭の生産過程で産出される有機酸を利用して、人工的にフルボ酸を高純度で量産化できる画期的な技術を開発した。</p>		

【農林水産技術会議会長賞 民間企業部門】

受賞者	業績名	所属
よしだ ゆたか 吉田 豊 むらおか たかのり 村岡 孝徳 ふじい たかはる 藤井 崇治 てらもと さおり 寺本 沙織 ふじた かずよし 藤田 和義*	スターチス・シネンシス「キノ シリーズ」の品種開発	福花園種苗株式会社 (愛知県名古屋市) *元福花園種苗株式会社
<p>〈業績概要〉</p> <p>ドライフラワーとして人気が高いスターチス・シネンシスは秋に定植し6～7月に開花するが、出荷期が集中することによる労働力不足と大量出荷による価格低下が大きな課題となっていた。こうした課題を解決するため、低温要求量が少なく高温の影響を受けにくい品種を育成し、春に定植する新しい作型を開発するとともに、栽培法を工夫し冬期に出荷すること等により周年供給の体系を確立した。</p>		

【農林水産技術会議会長賞 農林漁業者部門】

受賞者	業績名	所属
なかじま よしゆき 中島 義幸	グロリオサの新品種育成と地域ブ ランドの開発	農業自営 (高知県高知市)
<p>〈業績概要〉</p> <p>早くから新規の花き「グロリオサ」の有望性に着目し、高知市三里地区の気象・土壌条件に適した市場性の高い優良品種を開発するとともに、リーダーとして産地の花き農家に対して栽培技術や育種技術の普及など意欲的に取り組んできた。こうした長年の努力により、グロリオサを三里のブランド品目にまで育て上げることができ、さらには日本産花きに対する世界的な評価を高めることにも貢献した。</p>		

【公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会会長賞】

受賞者	業績名	所属
のぐち かつあき 野口 勝明	温泉水と温泉熱を用いた完全循環閉鎖型トラフグ養殖システムの開発	株式会社夢創造（栃木県那須郡那珂川町）
<p>〈業績概要〉</p> <p>海のない栃木県山間部において、海水の代替となる低塩分の天然温泉水と温泉熱の活用による閉鎖型の陸上循環養殖施設を用いた日本初のトラフグの実用的な一貫生産システムを開発した。このシステムにより飼育期間の短縮や経費節減が図られるとともに、温泉水という特色ある地域資源と独創的な養殖技術とを組み合わせ、地域の活性化に貢献した。</p>		
こばやし たかひこ 小林 貴彦 ながの しろう 長野 史郎 みやはら とくじ 宮原 徳治	アカバネウイルス新規製造用株を用いた牛異常産三種混合不活化ワクチンの開発	一般財団法人化学及血清療法研究所 （熊本県熊本市）
<p>〈業績概要〉</p> <p>アカバネ病は吸血性節足動物が媒介するアカバネウイルスに妊娠牛が感染することにより、流産、早産、死産や子牛の先天異常を起こす感染症であり、畜産農家に大きな経済的被害を及ぼす。本疾病を予防するため、従来のワクチン株に比べて、抗原性が異なる株にも有効な新規製造用株を選出し、動物用医薬品として実用化した。</p>		
うちうみ ひろし 内海 洋 やまだ ゆきお 山田 幸雄 せきむら とおる 関村 徹 たなか いちろう 田中 一郎*	厳冬期でも凍結しない環境配慮型車両消毒装置の開発	株式会社アクト （北海道帯広市） *元帯広畜産大学 （現：帯広信用金庫）
<p>〈業績概要〉</p> <p>伝搬能力の高い家畜伝染病は車両等の徹底した消毒が重要であるが、厳冬期は凍結のため効果的な消毒方法がなく、畜産現場からは技術開発の要望が高かった。開発した技術は、運転手が車外に出ることなく、マイナス30℃でも必要な時に自動的に瞬時に作動して車両の隅々まで消毒が可能であり、また、排水は浄化処理を行うなど環境にも配慮した装置である。北海道を含めた畜産関連施設で普及が進んでいる。</p>		